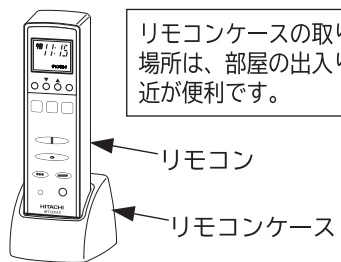


リモコンケースの使いかた

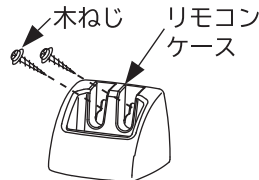
- リモコンをなくさないように、置き場所として壁などにリモコンケースを取り付けてご使用ください。



使用狀態

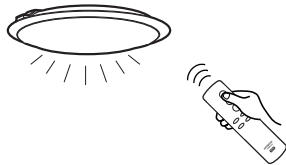
取り付けかた

- リモコンケースの位置を決め、付属の木ねじ2本で取り付けてください。



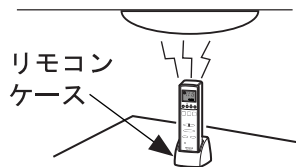
※リモコンケースにリモコンを入れて器具の近くに置く時のために、リモコンケースを上にならずに取り外せるように取り付けると便利です。

- リモコンは、リモコンケースから取り出し、器具に向けて操作してください。



リモコン使用上のご注意

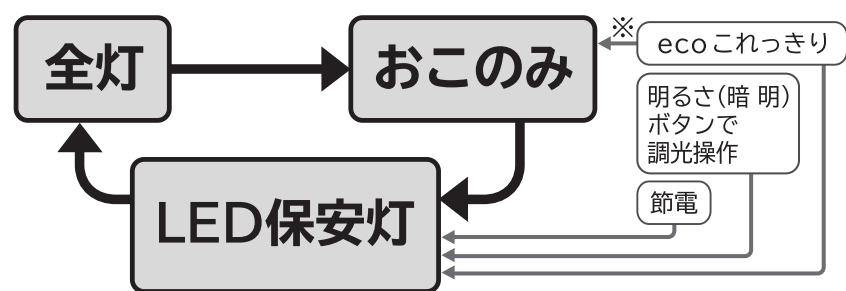
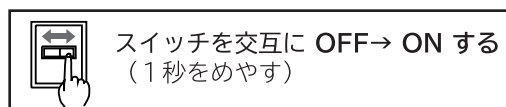
- 壁スイッチはONにしてご使用ください。
 - 室温が低いと(10℃以下程度)、蛍光灯点灯直後にリモコンでの切り替えができない場合があります。この場合、しばらくしてから切り替え操作を行ってください。
 - 天井・壁・床の色や材質によってはリモコンが動作しにくい場合があります。
 - リモコンスイッチと器具の間にしゃへい物がありますと器具が動作しない場合がありますので、しゃへい物を避けて操作してください。
 - 温度が高くなる物の上や湿気の多い場所でのご使用や、水にぬらしたりしないでください。また、リモコンを落としたり衝撃をあてたりしないでください。変形や故障の原因となります。
 - “タイマー予約”の設定で動作させる場合は、リモコンケースに入れてご使用ください。
また、リモコンを置く場所から器具が動作するかご確認のうえご使用ください。
 - 器具や周囲の環境条件により、動作しにくい場合があります。
器具の真下付近にリモコンケースに入れて置くことをおすすめします。
 - 乾電池の寿命時に電池残量表示が点滅を始めますので、乾電池を交換してください。交換後は通常通り使用できます。また、表示画面が消えてから乾電池を交換した場合、時刻表示および予約内容が工場出荷時の状態に戻りますので、再び設定してください。
 - 点滅時は“タイマー予約”は動作しませんが点灯切り替えの押しボタンでの操作は可能です。
- 



壁スイッチの操作

点灯モードを切り替える

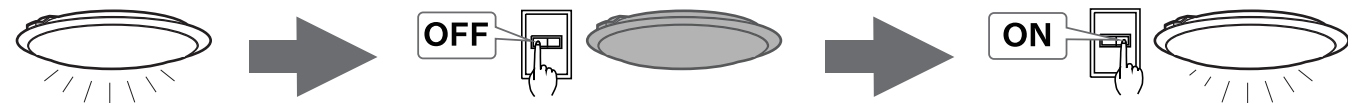
壁スイッチを、約1秒を目安に OFF → ON
すると点灯モードを切り替えることができます。



点灯・消灯

- 壁スイッチをOFFにして外出し、帰宅後、壁スイッチをONにすると、壁スイッチをOFFにする前の点灯モードになります。

※但し、明るさ(暗 明)の操作した場合、および、節電の場合は、おこのみ になります。



本体の取り付け

- 4** 蛍光ランプなどを固定しているテープをはがしてください。◀
※蛍光ランプに無理な力を加えない。破損によるケガや、故障の原因となります。

- 5** ランプソケットが確実に蛍光灯の口金に差し込まれ、ランプホルダーに確実に取り付けられているか確認してください。

※不完全な場合、火災や落下の原因となります。

➔ **P.6**

「カバーの取り外しかたとランプの交換方法」
③、④をご参照ください。

- 6 ハンドルが「ロック解除」の位置になっていることを確認してください。
-

-

- 8** ハンドルを「ロック」の位置にずらしてください。
-

- 9** アダプタ側コネクタと本体側コネクタを確実に差し込んだ後、アダプタのチューブをずらして、コネクタを確実に覆ってください。

チューブは本体とアダプタのすきまに押し込み、電線を配線押えに引っ掛けてください。

カバーの取り付け

- 10** 本体の内側の受け具の間にカバーの凸部を合わせてください。
- 合わせる**
-
- 本体

- 11** 反対側を押し上げてく
ださい。
- 
- ↑ 上げる

- 12** ① 押し上げながら止まるまで右に回してください。
 ② 確実に止まるまで回したことを確認してください。

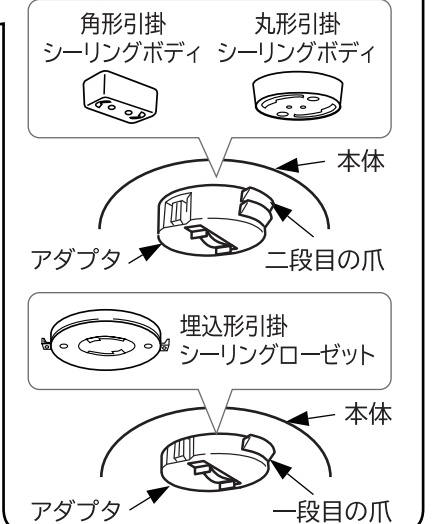
右回し 

● 本体裏側のスポンジや虫ガードをはがさない。
※回転防止や防虫効果のためです。

必ず守る

●天井に付いている配線部品により、本体に掛かる爪の位置が変わるので、必ず下の図を参照し、適切な爪(両側ニヶ所)が本体に掛かっていることを確認する。

※取り付けが不完全な場合、器具の落下によるけがの原因となります。



● 蛍光灯や枠に、無理な力からを加えない。
 ※破損によるケガや落下の原因となります。

アダプタのチューブ
をずらしてコネクタ
を確実に覆う。

●コネクタや電線を無理に引っぱらない。
※電線が断線し、感電、故障の原因となります。

**●カバーを正しく取り付け
た後は、カバーを無理に
回さない。**

禁止 ※器具の破損、落下による
けがの原因となります。

必ず守る

- 取り付け後、カバーを軽く下にひっぱり確実に取り付けられているか確認する。
- ※ 取り付けが不完全な場合、器具の落下によるけがの原因となります。